

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

絵本の里けんぶち観光地域づくり推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道上川郡剣淵町

3 地域再生計画の区域

北海道上川郡剣淵町の全域

4 地域再生計画の目標

北海道剣淵町は、北海道の中央よりやや北に位置し、東西 10.8 km、南北 12.6 km、総面積 130.99 km²の、北海道の中では小さなまち、農業を基幹産業としてきた。しかしながら、低価格の海外製品の普及や嗜好の変化等の外部要因と、補助金頼みで従来と変わらない取組を続けた内部要因の両面を背景に、主たる農業の生産が先細る状況が続いている。基幹産業の衰退による雇用機会の減少の結果、人口流出と急速な高齢化が最大の課題となっている。

そのため、町では基幹産業の農業だけではなく、多様な観光資源を掘り起こし、体験型観光メニューの開発等を行い、インバウンドをターゲットにした取組みを推進し、町のシンボルである「道の駅絵本の里けんぶち」を中心に情報発信やパーク&ライド、滞在型観光メニュー展開の拠点を目指し、地域外からの観光客を増加させ、雇用機会の創出、人材の育成、労働人口の確保、さらにはまちの賑わい創出にもつなげ、高齢化及び人口減少に歯止めをかけることを目的とする。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末	KPI 増加分 の累計
道の駅入込客数	53.5 万人	1.0 万人	1.0 万人	1.0 万人	3.0 万人
外国人観光入込客数	428 人	72 人	100 人	100 人	272 人

※各年度数値は、対前年度比増加分

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

インバウンドと本町の観光資源とのマッチングに重点を置き、町のシンボルである「道の駅絵本の里けんぶち」を中心に情報発信、パーク&ライドや滞在型観光メニュー展開の拠点を目指す。道の駅が道北観光の拠点となり、バスツアーなどの誘客施策が見えることで、地域施設や地域住民、地域協議会との連携をスムーズにし、町全体の機運を高めるだけでなく、国際観光地としての環境整備・人材育成及びまちの賑わい創出にもつなげる。また、本町のみならず 1 市 2 町（士別市・和寒町・幌加内町）広域の特産品を集約し販売することで、「地域の稼ぐ力」を強化する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道剣淵町

② 事業の名称

道の駅を核とした国際観光地づくり戦略事業

③ 事業の内容

- ・インバウンドの北海道旅行調査
- ・各国旅行会社の招聘ツアーからの地域資源調査
- ・インバウンド旅行業の専門家による国際観光地づくりセミナー
- ・地域協議会や施設との資源・ニーズのマッチングワークショップ
- ・道の駅絵本の里けんぶちを活用した観光メニュー&情報発信拠点づくり計画策定
- ・地域商社マーケティング事業（仕組みづくり支援）

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

インバウンド増加による閑散期の第三セクター（道の駅、剣淵温泉レークサイド桜岡）売り上げの増大により自立化を図る。

【官民協働】

行政がコーディネートし、地域経済団体はもとより、(株)VIVA アルパカファームやそれらの関連団体と連携し、まちの賑わいを創出させ、インバウンド事業の強化を図る。

【政策間連携】

第三セクターに運営を委託している「道の駅」が、教育分野や農業分野と連携しながら、売上増加につなげるための取組を行い、交流人口を増加させ、地域経済の活性化を図る。

【地域間連携】

単独事業の限界を打破するため、広域での観光ルート設定やモニターツアーを実施。知名度の高くない潜在力のある観光地が連携し、広域で事業に取り組むことで、知名度向上に資することが期待でき、また、地域資源を組合せることにより、当該地域の地域活性化につなげることができる。

【その他の先導性】

特になし

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	KPI 増加分 の累計
道の駅入込客数	53.5 万人	1.0 万人	1.0 万人	2.0 万人
外国人観光入込客数	428 人	72 人	100 人	172 人

※各年度の数値は、対前年度比増加分

⑥ 評価の方法、時期及び体制

毎年度末に、まちづくり団体、公募による住民のほか、外部有識者（産官学金労言等の各分野の専門家）で構成されたまちづくり町民会議を設置し、個々の事業について PDCA サイクルによる検証を実施する。また、必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果はホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

①法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

総事業費 58,000 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成 30 年 3 月 31 日（2 ヶ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 絵本の里けんぶち観光地域づくり推進事業

事業概要：絵本やアルパカ牧場等の多様な観光資源の潜在能力を掘り起こし、農業等と連携した体験型観光メニュー開発を進めることにより、絵本の里けんぶち観光地域づくり推進協議会と連携しながら滞在型観光の推進を図る。

実施主体：北海道上川郡剣淵町

補助制度名：地方創生加速化交付金（内閣府）

（平成 28 年度のみ活用）

事業期間：平成 27 年度～平成 28 年度

(2) 士別・和寒・剣淵・幌加内 着地型観光推進事業

事業概要：近隣市町の士別市、和寒町、幌加内町で、今まで独自の取組として実施してきた観光事業を、単独市町の事業展開に限界がある。各地の特色ある観光素材の魅力をより高めていくためには、広域による一体的な取組が重要となるため、広域ルートの設定やモニターツアーを実施する。

実施主体：士別市、北海道上川郡和寒町、剣淵町及び北海道雨竜郡幌加内町

補助制度名：広域観光推進事業補助金（(公社)北海道観光振興機構）

事業期間：平成 28 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 31 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、まちづくり町民会議において結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

目標 1

道の駅入込客数については、道の駅絵本の里けんぶちが毎年度末時点で自動客数センサーにより把握する。

目標 2

外国人観光入込客数については、VIVA アルパカ牧場、第三セクター等が毎年度末時点で把握する。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末	KPI 増加分 の累計
道の駅入込客数	53.5 万人	1.0 万人	1.0 万人	1.0 万人	3.0 万人
外国人観光入込客数	428 人	72 人	100 人	100 人	272 人

※各年度数値は、対前年度比増加分

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、まちづくり町民会議の事務局である町づくり観光課が毎年度末時点でホームページにより公表を行う。